

## 第2章 市民意識調査からみた文化芸術活動の現状と課題

和歌山市民、文化芸術団体、障害者の文化芸術に対する意識や意向を把握し、本市における文化芸術に関する現状と課題を明らかにし、本計画の基礎資料とすること等を目的として、市民アンケート調査、文化芸術団体・障害者団体へのヒアリング調査、市民ワークショップを実施しました。

市民意識調査の結果等から本市の文化芸術振興における課題を以下の5点にまとめました。

### 課題1 文化芸術活動の機会の充実が必要です

市民アンケート調査の結果、1年以内に文化芸術を「鑑賞したことがある」回答者は約7割に達するものの、「鑑賞」以外の文化芸術活動について「活動したことがない」回答者は8割を超えました。また、活動しなかった理由については「時間的余裕がない」を4割超の回答者が選択しました。

(複数回答)

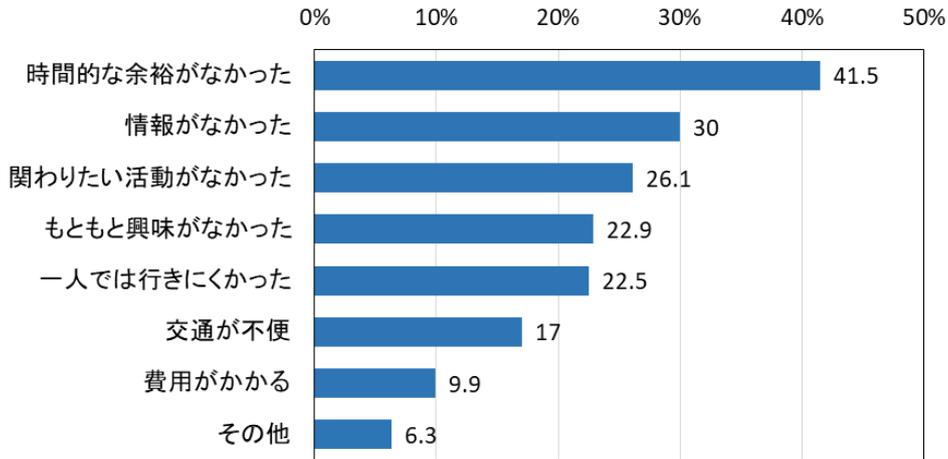
この1年間の文化芸術の鑑賞の有無



この1年間の文化芸術の活動の有無

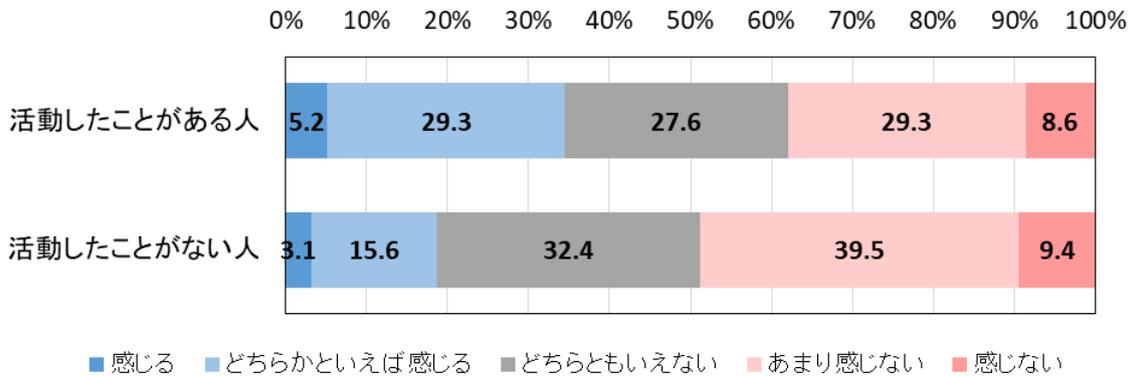


文化芸術活動をしなかった理由（複数回答）



また、「活動したことがある」回答者の3割超が和歌山市を「文化的なまち」と感じているのに対し、「活動したことがない」回答者の約半数が和歌山市を「文化的なまち」と感じていませんでした。

文化芸術活動の有無と「文化的なまち」の感じ方



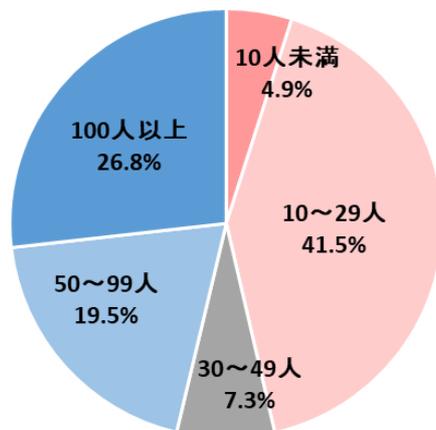
以上から、和歌山市がより「文化芸術的なまち」となり、それを市民に実感してもらうためには、文化芸術活動への参加者を増やしていくことが必要であり、そのために、市民が日常的に文化芸術活動を行い、又は鑑賞する機会を増やすことが必要です。

## 課題2 文化芸術の担い手が不足しています

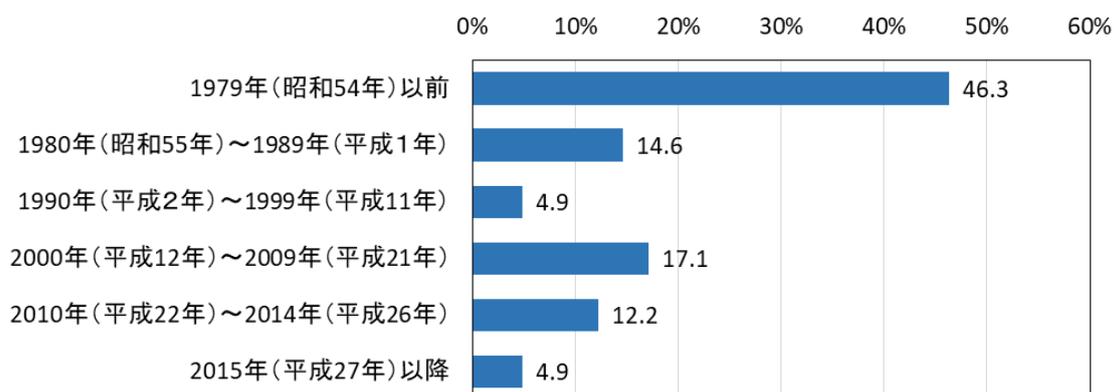
市内を活動拠点とする文化芸術団体へのアンケート調査によると、50人以上の規模の団体、活動期間40年以上の団体がともに約半数を占め、歴史

のある文化芸術団体が多数存在していることがわかります。

団体の構成人数

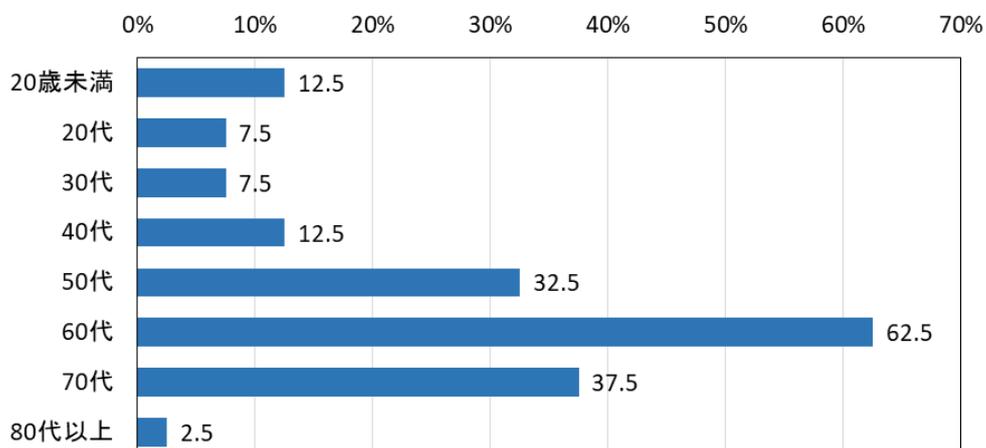


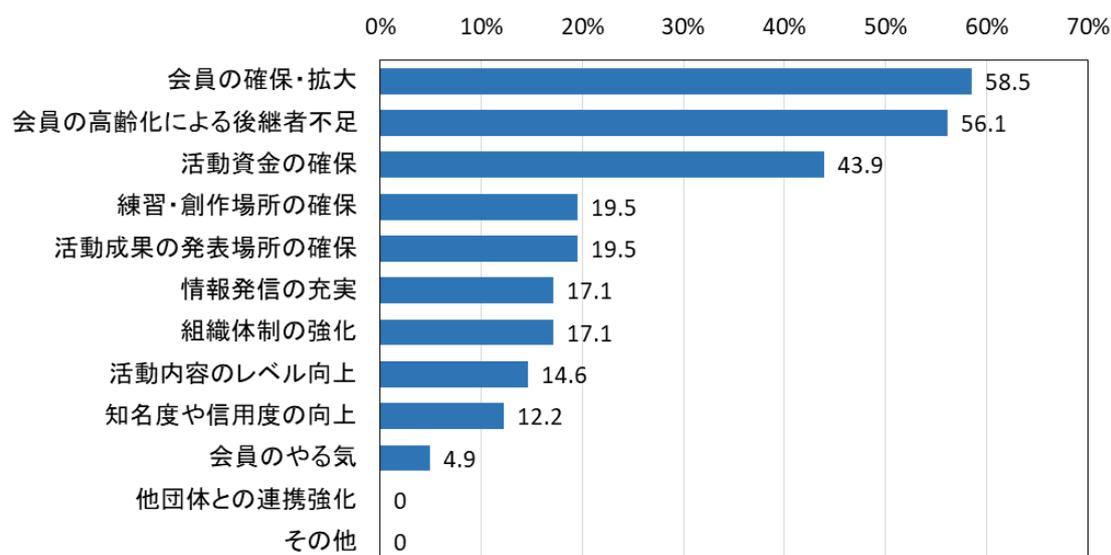
団体の結成時期



一方でその中心年代は「50代以上」との回答が圧倒的に多く、今後の課題として「会員の確保・拡大」と「会員の高齢化による後継者不足」をあげる団体が多数を占めました。

団体メンバーの中心年代（複数回答）





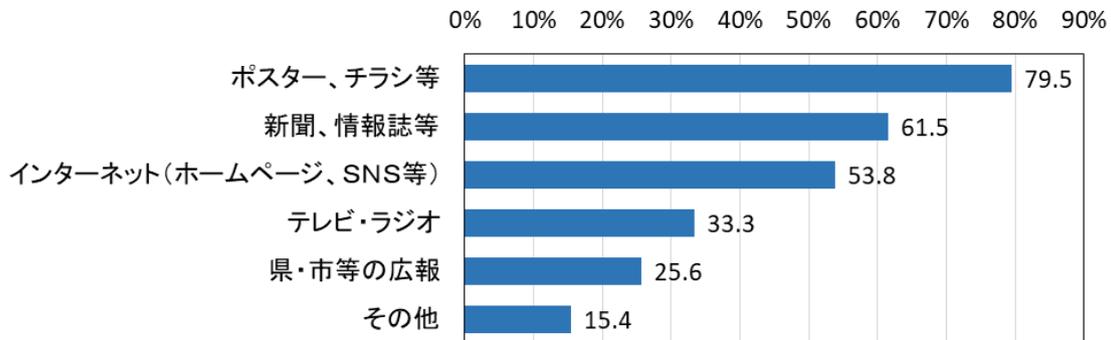
年齢にかかわらず、文化芸術に関心を持ちながらも現在活動に参加していない市民が気軽に参加できるような環境・機会を充実していくと同時に、和歌山市の文化芸術を将来的に担っていく世代を育成していくため、本市においてすでに実施している文化芸術体験のための諸施策の周知に努めるとともに、より多様な文化芸術体験の機会創出と、参加しやすい風土の醸成が必要と考えられます。

また、和歌山市には県の無形文化財に指定されている「団七踊」「木ノ本の獅子舞」「岩倉流泳法」「関口新心流・柔術・居合術・剣術」をはじめとした伝統芸能や伝統文化があり、指定の有無にかかわらず、地域住民の手で引き継がれている祭りやお囃子、歴史的な文化財も多数存在します。これらの地域の伝統芸能や文化財等の保護・保存団体を支援するとともに将来の担い手の育成が必要とされています。

### 課題3 文化芸術に関する情報が不足しています

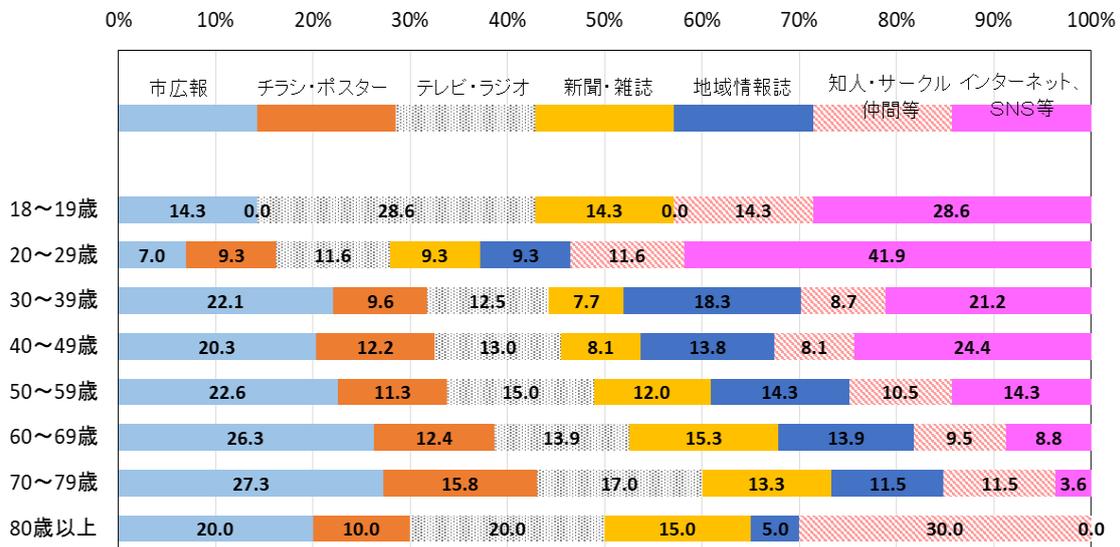
市内を活動拠点とする文化芸術団体へのアンケート調査によると、団体の活動に対する情報発信については約8割が「ポスター・チラシ等」を選択していますが、一方で半数超の団体が「インターネット（ホームページ・SNS等）」も選択しています。（複数回答）

### 文化芸術団体の活動に関する情報の発信方法（複数回答）



しかし市民アンケートの結果、インターネット等での情報入手は40歳代以下に多く、もっとも文化・芸術活動をしている世代である50歳代以上では「市広報」「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」の割合も高く、年代による情報入手方法の違いが見られます。

### 世代別文化芸術に関する情報の入手方法



文化芸術団体の活動情報のみに限らず、和歌山市における文化芸術に関するさまざまな情報を広い世代や地域で入手できるようにすることが、文化芸術の振興につながると考えられることから、情報収集・提供の仕組みづくりを検討していく必要があります。

また、和歌山市には令和元年12月31日時点で52件の国指定文化財、

65件の県指定文化財、66件の市指定文化財、加えて82件の国の登録文化財があり、紀三井寺、紀州東照宮をはじめとする和歌浦湾を取り巻く数々の文化財が「絶景の宝庫 和歌の浦」として日本遺産にも認定されています。

これらの文化財等は和歌山市の歴史と文化を理解するうえで欠くことのできない貴重な財産であり、地域の魅力を高める重要な資源です。

和歌山市ではこれらの文化財等の保護・保存を図るとともに「旧中筋家住宅」や「湊御殿」などの見学可能な文化財においては観光資源のみならず、将来を担う子どもの郷土愛をはぐくむための教育資料としての活用も図るとともに、説明板や道案内看板の設置等も進めています。

地元の小・中学校等を通じた周知を図るとともに、市の内外に向け「和歌山の歴史的資産」を積極的に発信していくことが必要です。

#### **課題4 障害者が文化芸術活動を楽しめる環境づくりが必要です**

文化芸術活動を行っている障害者団体等へのヒアリング調査や障害者アンケート調査では、文化芸術の鑑賞の機会・発表の機会と指導者の充実、文化芸術活動を行っている個人・団体間の連携、を求める意見が多数聞かれました。

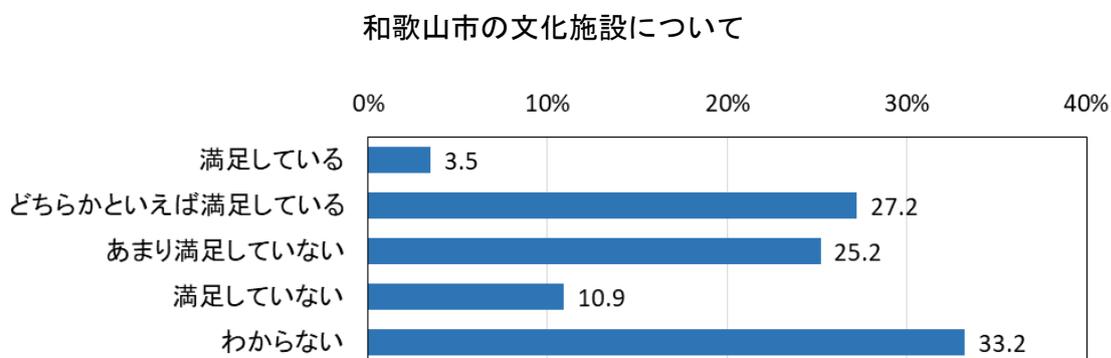
障害者等が文化芸術の場において才能を発揮できる機会を提供することで、自らの感性や創造性を発揮し、積極的に文化芸術活動を行い、その活動を通じて他者との交流を深めることができるような環境を整え、障害者の生活の質の向上を目指すとともに、相互理解や受容性を育む必要があります。

また、配慮が必要な方の声を継続的に聞き、より文化芸術活動に参加しやすく、積極的に楽しんでいただけるような取組が必要です。

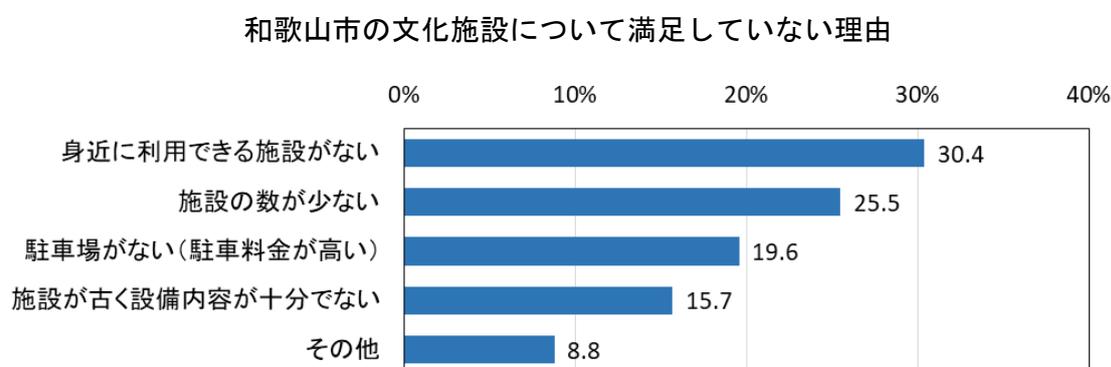
#### **課題5 利用しやすい文化施設の整備が望まれます**

現在和歌山市には市民会館、市民図書館、市立博物館、和歌の浦アートキューブをはじめ、各コミュニティセンター、和歌山市ふれ愛センターなど、文化芸術活動に利用できる施設が多数あります。しかしながら市民アンケートでは「市の文化施設の満足度」の設問に対し、「満足している」「どちら

かといえば満足している」の回答は約3割でした。



「満足していない」「あまり満足していない」回答者の「満足していない」理由としては、「身近に利用できる施設がない」「施設の数が少ない」の回答が半数を超えました。



「身近に利用できる施設がない」「施設の数が少ない」の回答が多い理由としては和歌山市の施設が十分に認知されていないことが考えられます。

令和3年秋に和歌山市の文化・芸術の中心拠点として「和歌山城ホール(新市民会館)」が開館するのを機に、各施設それぞれの特色をいかした魅力ある事業展開と機能の強化をはかり、また、施設の利便性を改善するとともに施設情報等についても、より分かりやすく提供していく必要があります。